

新生前診断

徳大病院で 10人が受診

妊婦の血液で胎児の染色体異常を調べる新しい出生前診断を実施する医療施設の臨床研究チームは10日、札幌市内で会合を開き、施設別の受診者数などを報告した。

4月に全国15施設で始まった新生前診断は同月に妊婦計441人が受診。国立成育医療研究センター（東京）が75人で最も多く、次いで名古屋市立大病院の72人だった。徳島県内は、徳島大病院で10人が受診した。センターの左台治産科産期センター長は「受診者千人をめぐり、中間報告を日本産科婦人科学会に提出したいと話した。」